

麻績学校校舎～舞台に変化する学校校舎～

所 たい

麻績神社前の大石垣の上には「麻績学校校舎」と呼ばれる大きな木造の建物が建っています。桜の時期になると建物の前には「舞台桜」が咲いて、人形芝居の舞台としても使われています。

この建物はいつ、どういった経緯で建てられた建物なのでしょう？「舞台校舎」とも呼ばれる理由はなぜでしょうか？座光寺で一番大きな木造建築を調べてみましょう。

どんな建物？

「麻績学校校舎」は、1875年（明治6年）に、小西弥惣太という棟梁と赤羽目辰次郎をはじめとする大工によって建築されました。幅約18m（10間）、奥行き約13m（7間）、高さ12mで、二階建て（後ろ側は三階建て）の巨大な木造建築です。現在残っている学校校舎としては長野県で一番古い建物で、長野県宝に指定されています。

学校と舞台が一緒になった建物

江戸時代の終わりのころから、飯田下伊那の各村々では、人形芝居や歌舞伎を行うための舞台を作ることが流行しました。テレビや映画のない時代の娯楽であったため、飯田下伊那地域には60以上の農村舞台がありました。

また、明治時代になって学校建設も必要になりました。学校も舞台も大きな建物が必要ですが、当時の座光寺では大きな建物を2つ作ることができませんでした。そこで、2つの機能を合わせて、普段は学校校舎として使い、必要ときに歌舞伎舞台として使える、とても珍しい複合建物で完成しました。



麻績学校校舎と舞台桜
人形劇が演じられているところです。（2006年4月）



正面の長い虹梁は、飯島町から切り出され、天竜川を流して引き上げたものです。



麻績学校校舎 1階内部
約15メートルの長い梁2本で二階を支えています。
—もとは1本の丸太を2つに割ったものです。
前脚2本の柱は修理のときに補強で入れた柱です。



高岡の森の木材伐採事件

ぼつさい

1871年（明治4年）、座光寺に舞台の建設が決まり、建物を建てるための材木の調達が始まりました。それを聞いた若者が、勢いあまって高岡の森の杉の木を22本、無断で切り倒してしまいました。

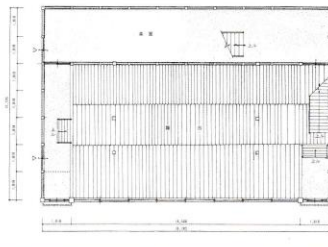
それだけ当時の若者が舞台の建設を早く願っていたことがうかがえる事件です。

建物のしかけ

学校として使うためには、窓や壁で仕切られたいくつかの教室が必要です。逆に舞台として使うには、仕切りのない広いステージと、大きな開口部が必要です。この2つの相反する条件を満たすためにはどうしたらよいのでしょうか？

まず正面の大きな梁を支えるために7本の柱や窓がありましたが、これらは舞台として使うときにはステージを見ることができるように取り外せました。また二階から役者が降りたり、二階に背景を引き上げたりするため、二階の床板と、床を支える根太という材料も取り外せるようになっています。これで学校から舞台へ変身です。

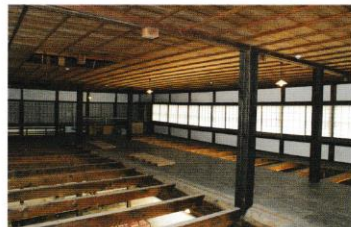
現在は、人形芝居などの舞台として使えるように、正面の柱は取り外され、二階の床板も一部取り外されています。今の姿からは学校の校舎だったとは想像がつかないかもしれませんね。



麻績学校校舎一階平面図（上）、梁行断面図（右）
『県宝旧座光寺麻績学校校舎修理工事報告書』（飯田市教育委員会、1999年）

もとのに復元

1984年（昭和59年）、現在の座光寺小学校が完成し、ここに移るまで、麻績校舎は学校として100年以上も使用されてきました。増改築がくり返され、正面には玄関がついていましたが、1997年（平成9年）、建築当時の舞台校舎の姿に復元修理されました。



麻績学校校舎 2階内部

現在は舞台として使えるように床板が取り外されています。後側2本の柱は一階から屋根裏まで1本でつながっている「通柱」と呼ばれる長い柱です。



修理前の正面の玄関は、すぐ隣の「麻績の里交流センター」の裏口として移築されています。

